

令和 3 年度決算に係る

定 期 監 査 資 料

令和 4 年 5 月

水 産 試 験 場

## 目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	職員の定員、現員調べ	1 頁
4	役付職員の調べ	1 頁
5	主な事業に関する調べ	2 頁～4 頁
6	現金の取扱状況	5 頁
	(1) 現金取扱状況	
	(2) つり銭の状況	
7	財産に関する調べ	5 頁～7 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
8	財産の貸付け及び使用許可調べ	8 頁～9 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
9	借受不動産明細調べ	9 頁
10	職員駐車場の管理状況調べ	10 頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
11	寄附物件の受納状況調べ	10 頁
12	備品の処分状況調べ	10 頁
13	船舶（公有財産の船舶含む）の管理状況	10 頁
14	事業別予算執行状況調べ	10 頁
15	生産物（品）に関する調べ	11 頁
16	試験研究調査事業別実施状況調べ	11 頁～13 頁
17	船舶運航調べ	13 頁～14 頁
18	用船の状況調べ	14 頁
○	意見、要望等	14 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項  
該当なし

(2) 監査意見  
該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況  
該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和4年4月1日現在)

区分	種別	事務職員		技術職員		現業職員		合計		備考
		当該年度	3.4.1現在	当該年度	3.4.1現在	当該年度	3.4.1現在	当該年度	3.4.1現在	
定員		1	1	17	17			18	18	
現員		( ) 1	( ) 1	( ) 17	( ) 17	( )	( )	( ) 18	( ) 18	
過不足(△)										
臨時的任用職員										
会計年度任用職員		1	1	2	2			3	3	事務1名 調査・研究補助 2名

4 役付職員の調べ

(令和4年5月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	石原 幸雄	1	1	
課長補佐	山本 英治	3	1	出納員
浮魚資源室長	前田 啓助	0	1	R4.4.1室名変更
底魚資源室長	太田 武行	1	1	R4.4.1室名変更
船長（第一鳥取丸）	森脇 誠	1	1	
機関長（第一鳥取丸）	松尾 敏幸	8	1	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
スマート漁業推進事業	4,416			2,970	1,446
将来ビジョン					
令和新時代創生戦略					
政策項目	2 しごと新時代、(6) 商工・農林水産業にIoT・AI等を活用し産業をスマート化				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

- ・本県沿岸海域における水深別の高精度な海況予測(水温、塩分、潮流)が分かる「海中の天気予報」を漁業者に提供し、活用してもらうことで、不要な出漁を無くし、計画的な操業や漁場探索労力の軽減による効率的操業(労働時間短縮・燃油削減)が図られるとともに、経験の少ない新規漁業者にとって重要な情報となり、沿岸漁業のさらなるスマート化を推進する。
- ・このため、令和2年度から国の委託事業(ICTを利用した漁業技術開発事業)を活用し、最大7日先までの沿岸海域の海況予測を九州大学等と共同で行っており、「海中の天気予報」としてスマートフォン用のWebページやアプリで漁業者へ提供する。
- ・高精度な海況予測を行うためには、多くの実際に海洋観測(水温、塩分、潮流)したデータが必要であり、沿岸漁業者自ら操業時に海洋観測を行ってもらい、そのデータを洋上の漁船から送信し、収集できる体制を構築する。加えて、潮流観測のデータ送信については、通信費用等が必要なタブレットPCではなく、導入・維持費が安価な漁船既設のデジタル無線機を活用したデータ送信及び無線局での受信試験を行う。

(イ) 事業の実施状況

- ・水温・塩分測定装置4台、漁船既設の潮流計の観測データ自動収集装置1台及びデータ送信用タブレットPCを導入し、それらの機器を沿岸漁業者に貸与し海洋観測を行った。
- ・漁船のデジタル無線機を活用した潮流計観測データ送信及び無線局での受信試験を7隻で行った。
- ・試験版の「海中の天気予報」を、希望する漁業者約80名に配布し、改良点(予測が大きく外れる海域等)や意見を聞いた。《海洋観測実施漁船の状況》

観測項目(データ送信方法)	漁船隻数		地区 (下線はR3新規地区)	
	R2	R3		
水温・塩分(タブレットPC)	8	4	境港, 御来屋, 赤碕, 青谷, 夏泊, 酒津, 賀露, 網代, 田後	
潮流	(タブレットPC)	2 <sup>**</sup>	1 <sup>**</sup>	御来屋, 夏泊, 酒津
	(デジタル無線機)	2	7	淀江, 御来屋, 赤碕, 泊, 夏泊, 酒津

※デジタル無線機によるデータ送信(試験)も実施

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・令和2年度は、水温・塩分の観測データが県西部海域で多く、県東部海域(田後・網代沖)で観測が無い状態であった。観測データが少ない海域は予測精度が低下する可能性があるため、令和3年度は新たに3地区の漁船4隻に協力依頼し、観測数の増加や県西部と東部の観測数の偏りを低減する取り組みを行った。
- ・デジタル無線機による観測データ送信試験では、データ受信する陸上の無線局とデータ送信する漁船の距離が離れると、データ受信成功率が50%以下に低下する問題が発生し、漁船の無線機の感度調整等を行い、受信成功率を向上させた。

ウ 成果及び効果

- ・沿岸漁業者が水温・塩分の観測を開始した令和2年度9月～翌年3月の間と令和3年度の同期を比べると、前者が163回、後者が266回であり、大幅に観測回数が増加した。また、令和3年度は、令和2年度に観測が無かった県東部海域での観測が行われデータ取得出来た。
- ・デジタル無線機による観測データ送信試験では、漁船無線機の感度調整を行った結果、受信成功率が67%以上まで向上し、実用化の目処がたち、観測漁船数を増隻した。
- ・「海中の天気予報」を5月間使用したイカ釣り漁業者からは、漁場探索時間が約3割削減され、イカを釣る実時間を増やせるようになったと好評を得た。

エ 課題

- ・漁業者から潮流予測の精度向上を求める声がある。予測精度の向上のため、今後はデジタル無線機を活用した方法を用いた観測漁船のさらなる増隻や、沿岸潮流観測ブイの潮流観測データを予測計算に活用する。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
浮魚資源変動調査	4,262			3,074	1,188
将来ビジョン					
令和新时代創生戦略	14	海の豊かさを守ろう			
政策項目					
(概要)					
浮魚資源変動調査事業のうちマアジ、マイワシ、マサバ資源調査について					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
<p>・「まき網」により境漁港へ水揚げされる浮魚<sup>うきうお</sup>と呼ばれるアジ、サバ、イワシ類は、本県漁業生産量のうち約8割を占める重要な魚種である。浮魚資源は海洋環境等の影響による資源変動が大きく、漁業者や流通・加工業者等に経営指針となるよう資源動向や漁場形成に関する情報を提供する。また、資源を守りながら安定的に漁獲を続けるために、(国研)水産研究教育機構と連携し、国が行う資源評価の基になる科学的な基礎データを収集し、資源管理方策への提言を行う。</p>					
(イ) 事業の実施状況					
<p>・市場調査(漁場、水揚量、魚体サイズ等)や加入量調査を実施し、資源評価のための基礎データを収集した。また主要な漁期前である7月、12月、3月に境港地区で漁海況連絡会議を行い、水産関係者に資源動向や漁場形成要因等の情報を説明し提供した。</p>					
【本県沖における加入量調査(第一鳥取丸で実施)】					
<p>(マアジ) 加入量の予測推定のため、5～6月に中層トロール網を用い、新規加入量調査(漁場で獲れるようになる前の全長約3cmの稚魚の分布量調査)を行い、加入量の予測推定を行った。</p>					
<p>(マイワシ) 資源動向把握のため、3～5月に海面表層のネット曳きにより、マイワシ<sup>しぎよ</sup>仔魚(全長約1cm)の採集調査を行った。また5月に中層トロール調査を行い、マイワシ当歳魚(体長約7～10cm)の採集を試みたが採集することはできなかった。</p>					
イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点					
<p>・特になし(市場調査、第一鳥取丸による調査を継続)</p>					
ウ 成果及び効果					
<p>(マアジ) 本年度の加入量指標値は0.90と昨年程ではないが、平均的な値となり、マアジの加入量は前年を下回り、前々年を上回ると考えられた。当該結果を7月に水産関係者へ向けて公表した。</p>					
<p>(マイワシ) 海面表層のネット曳きによる調査の結果、マイワシ仔魚が1,299尾採集された。この量は昨年を上回り、直近5年間の中では2番目に多く採集された。近年、加入状況は良く、資源水準は中位で増加傾向にあり、2021年の境漁港の水揚量は35,245トン(平年比156%)と大きく増加した。</p>					
<p>(マサバ) 資源動向は横ばいにあると推定されており、本年は平年と比較して水揚量が少なかった(2021年境漁港：15,471トン、平年比62%)。</p>					
エ 課題					
<p>・まき網漁業の業界からの的確な資源動向等の情報提供と漁況予測への強い要望があり、精度の高い現場データ収集に加え、近年見られる水揚げパターンの変化を考慮した漁況予測の検討を行う必要がある。</p>					
<p>・現在のABC(生物学的許容漁獲量)算定方法は水揚量の影響が大きく、資源水準は悪くないものの水揚量が減少した(=漁場形成の有無、狙いの魚種とするか等)魚種において、ABCが低く算定されてしまう可能性がある。資源水準とABCの乖離が大きいと、漁業者が過度な漁獲規制をしいられる恐れがあるため、現場の実態をABC算定へ適切に反映出来るよう水産研究教育機構と協議していく必要がある。</p>					

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
底魚資源変動調査	13,978			7,240	6,738
将来ビジョン					
令和新時代創生戦略	14 海の豊かさを守ろう				
政策項目					
<p>(概要)</p> <p>底魚資源変動調査のうちズワイガニ分布調査について</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖合底びき網の令和3年の年間生産額は55.9億円であり、ズワイガニは59%を占める重要魚種である。また、供給量の減少や、外国からの輸入品の減少、GoToトラベル等の政策により主な流通先である北陸からの需要が増加した等が影響し、単価が上昇し、令和3年漁期の漁獲金額は過去最高の32.8億円であった。さらに、鳥取県は蟹取県やウェルカニキャンペーンなどズワイガニを使ったPRを行っており、観光資源としても重要である。</li> <li>・一方、(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、「水産資源研」という。)及び当場の調査により、平成30年漁期から令和3年漁期にかけ、大きく資源が減少することが示された。</li> <li>・今後の本県におけるズワイガニ資源動向の把握には、従来の着底トロール網では、十分に採集できなかった甲幅50mm未満の小型ズワイガニ(稚ガニ)を対象とした調査が必要となり、令和元年度からズワイガニ稚ガニ用桁網(以下、「桁網」という。)による試験操業を開始した。</li> </ul> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の桁網調査は、令和2年度の隠岐東南東方海域の8地点、浜田沖の4地点の計12地点に加え、さらに隠岐北方海域で4地点、出雲から浜田沖の6地点を追加し、計22地点において9月9～14日に実施した。</li> <li>・また、ズワイガニ漁期前の10月4～26日には着底トロール網調査を行い、漁獲対象サイズの資源の分布状況を把握した。</li> </ul> <p>イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桁網は、前年度、稚ガニが採集できることを確認したため、調査精度向上を目的に、調査点を大幅に増加させた。</li> <li>・従来、着底トロール網の結果でのみ推定していた現存量(分布密度を分布面積で引き延ばしたもの)の推定を桁網でも行い、甲幅2cmの稚ガニからの分布量を把握した。</li> </ul> <p>ウ 成果及び効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桁網調査の現存量推定結果を、着底トロール網の現存量推定結果に追加することで、これまで3年先の将来予測しかできなかったものが、5年先まで予測できるようになった。</li> <li>・着底トロール網の結果のみでは、今後の資源減少しか把握できていなかったものが、桁網の結果を加えることで5年後の資源回復の可能性が把握でき、漁業者等関係者に対して明るい予兆を情報提供できたものとする。</li> <li>・ズワイガニ漁期前トロール調査により、漁場の資源尾数を推定し、松葉がには前年並み～前年・平年(直近3カ年平均)を下回る、若松葉は前年・平年を下回る、親がに(雌)は前年・平年を下回るという結果となった。結果は漁業関係者に周知し、操業に役立てられた。なお、令和3年漁期は松葉がに前年比66%、若松葉83%、親がに89%と、調査結果に類似する水揚げであった。</li> </ul> <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桁網調査については調査定点や手法を見直し、データを蓄積し、さらなる精度の向上を図る。</li> <li>・今回推定した現存量は、桁網調査と着底トロール網の漁獲効率の違いを考慮していないため、今後、採集状況等を勘案しながら数値補正を行うかどうかを判断する必要がある。</li> <li>・今後、漁況の減少が予測されるため、懸命な資源の利用方法を検討する必要がある。</li> <li>・また、昨年度の桁網調査で確認された甲幅2～3cm台の稚ガニを資源回復につなげる保護方法についても検討する必要がある。</li> </ul>					

6 現金の取扱状況  
該当なし

7 財産に関する調べ  
了 土地  
(1) 公有財産

(令和4年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況			本年度末		備考				
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由		登記年月日	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政財産	水産試験場	境港市竹内団地107	5,025.22	99,499,356	増加 R				R					
計			5,025.22	99,499,356	減少 R				R					
普通財産	(該当なし)				増加 R				R					
計					減少 R				R					
合計			5,025.22	99,499,356								5,025.22	99,499,356	

イ 建物

(令和4年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考			
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日		面積 (㎡)	価額 (円)	
行政財産	庁舎	境港市竹内団地107	1,335.90	202,152,530	増加 R					R	1,335.90	202,152,530		
			3		減少 R					R				
			340.00	19,597,250	増加 R						R	340.00	19,597,250	
計	車庫	境港市竹内団地107	42.00	3,681,288	減少 R					R	42.00	3,681,288		
			1,777.90	225,431,068	増加 R					R	1,777.90	225,431,068		
普通財産	(該当なし)				増加 R				R					
計					減少 R				R					
合計			1,777.90	225,431,068							1,777.90	225,431,068		

ウ 山林  
該当なし



エ 動 産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機）

（令和4年3月31日現在）

区 分	前 年 度 末		本 年 度 中 の 増 減 (△)			本 年 度 末 数 量	備 考
	取得年月日	数 量	年月日	数 量	取得又は処分価格		
船 舶	H9. 2. 27	(t) 199.00	—	—	—	(t) 199.00	第一鳥取丸
合 計		199.00	—	—	—	199.00	

オ 物 権

該当なし

カ 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等）

（ア）異動状況

該当なし

（イ）出願及び登録の状況

（令和4年3月31日現在）

区 分	名 称		出願日	登録日	活用の有無
特許権	活魚鎮静化システム		R2. 8. 19	出願中	無
出願中	1 件	登 録			— 件

（ウ）活用の状況

該当なし

キ 有価証券

該当なし

（2）金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況

該当なし

8 財産の貸付け及び使用許可調べ  
 (1) 土地及び建物  
 了 土地

(令和4年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	住所名	
行政財産	事務所用地	境港市内団地 107	107.00㎡	H31.4.1	H1.9.11	H31.4.1 ～ R11.3.31	月額・年額 47,113	47,113	境港市内団地107	鳥取県無線漁業協同組合	文書ID 21-00285901
	鉄塔用地	"	93.00㎡	H31.4.1	H6.4.1	H31.4.1 ～ R6.3.31	月額・年額 59,091	59,091	"	"	文書ID 21-00039795 21-00159456
	電柱設置用地	"	本柱1本 支線4本	H31.4.1	H6.4.1	H31.4.1 ～ R6.3.31	月額・年額 7,500	7,500	鳥取市湯所町2丁目258 西日本電信電話株式会社 鳥取支店	鳥取市湯所町2丁目258	文書ID 21-00006090
	電柱設置用地	"	本柱 (共架 施設)	R1.6.17	R1.6.17	R1.6.17 ～ R6.3.31	月額・年額 1,500	1,500	米子市加茂町 2丁目51番地 中国電力株式会社 米子営業所	米子市加茂町 2丁目51番地 中国電力株式会社 米子営業所	文書ID 21-00005761
計								115,204			
普通財産	(該当なし)						月額・年額	0			
計							月額・年額	0			
合計								115,204			

イ 建物

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	所名	
行政財産	アンテナ設置	境港市竹内団地 107	0.1352㎡	H30.4.1	H20.2.12	H30.4.1 ～ R5.3.31	月額・年額 9,960	9,960	境港市竹内団地107 鳥取県無縁漁業協同組合	文書ID 21-00039738	
計								9,960			
普通財産	(該当なし)						月額・年額	0			
計								0			
合計								9,960			

(2) 物品  
該当なし

9 借受不動産明細調べ  
該当なし

10 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

(令和4年3月31日現在)

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	境港市竹内団地107	12.50	1,000
普通財産	(該当なし)		

(2) 減免の考え方(減免を行った場合のみ)

該当なし

(3) 使用料の見直し

該当なし

11 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

12 備品の処分状況調べ

該当なし

13 船舶(公有財産の船舶を含む。)の管理状況

(令和4年3月31日現在)

船名	トン数	取得 年月日	稼働 日数 日	修繕費等 円	左の主な内容 円	定係港又 は船籍港	占用料 円	備考
第一鳥取丸	199.00	H9.2.27	101	131,237	油圧ポンプ交換 外			
計				131,237				

14 事業別予算執行状況調べ

目名 水産試験場費

(令和4年5月31日現在)

事業名	事業の概要(目的、実績等)
ファインバブルを用いた水産物品質保持試験	16 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
海洋環境変動調査	16 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
浮魚資源変動調査	5 主な事業に関する調べに記載 16 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
底魚資源変動調査	5 主な事業に関する調べに記載 16 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
中海・美保湾資源生産力調査	16 試験研究調査事業別実施状況調べに記載
スマート漁業推進事業	5 主な事業に関する調べに記載 16 試験研究調査事業別実施状況調べに記載

1.5 生産物（品）に関する調べ

(令和4年5月31日現在)

生産 部門	品名 種類	生産 計画 数量	生産数量			場内 使用 (kg)	処 分 数 量						分 類 換	差 引 残	備 考	
			前年度 からの繰 越	生産 購入 (kg)	計 (kg)		売 却		目的外 使用		廃 棄	計				
							数量	金額	数量	金額		数量				金額
水産 試験 場	スルメイカ	0	0	91.4	91.4	91.4	0	0円	0	0円	0	0	0円	0	0	
	ソウチ	0	0	3.6	3.6	3.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ズワイガニ雄	0	0	35.6	35.6	35.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ズワイガニ雌	0	0	85.6	85.6	85.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ベニズワイガニ 雄	0	0	0.5	0.5	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ベニズワイガニ 雌	0	0	11.4	11.4	11.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ケンサキイカ	0	0	28.9	28.9	28.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ハタハタ	0	0	116.8	116.8	116.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ヒレグロ	0	0	22.5	22.5	22.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	アカガレイ	0	0	1.3	1.3	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0	0	397.6	397.6	397.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

1.6 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和4年5月31日現在)

事業名	実施計画 期 間 (予算額) 支出済額	担 当 室	試 験 研 究 調 査 の 目 的	試験研究調査の 成果・課題
ファイン バブルを 用いた水 産物品質 保持試験	3年度 ～ 5年度 円 (976,000) 843,327	海洋資源室	(単) ファインバブル（直径100マイ クロメートル未満の泡）処理によ る甲殻類の黒変防止や魚類（沿岸 漁業主要魚種）の色調保持、味 （食感）、生臭み抑制等の効果が 発現する条件（処理方法）を検討 開発しマニュアル化し漁業者、漁 協、仲買業者等へ普及を図る。	(成果) 窒素ウルトラファインバブル（以下 「UFB」という。）により、色味の保持、 臭いの軽減という効果が見られたも の、軽微な変化であり、付加価値向 上が図られるほどの変化とは考えら れなかった。 酸素 UFB 試験では、浸水時間別にエ ビ類の経過把握を行った結果、30分以 上 UFB に浸水させた個体群で1日後の 黒変軽減効果が確認された。ただ個体 差が大きく、付加価値向上が図られる ほどの変化とは考えられなかった。  (課題) ・窒素 UFB では、臭いの軽減という 洗浄効果について、付加価値向上の 可能性がありそうであるため、シラ ス等で追加検証していく必要がある。 ・酸素 UFB では、個体差が目立つ結 果となり、同一条件化での試験と なっていないことが考えられたた め、試験方法の再検討が必要であ る。

海洋環境 変動調査	20年度 ～ 年度 円 (3,820,000) 3,711,629	海洋資源室	(委、単) ・海洋環境(水温等)の動向を把握し、漁業者へ迅速な情報提供を行う。 ・大型クラゲの来遊状況調査及び情報提供を行い、漁業被害を防止する。	(成果) 1月を除く毎月、試験船「第一鳥取丸」を使用して水温、塩分等の海洋観測を実施し、その結果を漁業者等へ情報提供を行った。 12月には境港の漁業者・流通・加工業者等を対象に、海洋観測結果等によって得られた情報を元に、スルメイカなどの漁況を予測した結果を説明した。 大型クラゲの入網情報は、(一社)漁業情報サービスセンターに報告するとともに、ホームページや漁海況会議等を通じて漁業者に情報提供を行った。 (課題) 海洋観測の実施について、時化等によりやむを得ず観測点を減少させ実施することがあり、十分な観測実施が出来ない場合があり、水温分布図等に反映できないことがある。
浮魚資源 変動調査	20年度 ～ 年度 円 (4,763,000) 4,261,694	漁場開発室	(委、単) ・浮魚(アジ、サバ、イワシ類、クロマグロ、イカ類)の資源状況を把握し、資源管理を推進するための管理方策検討の資料とする。	(成果) 成果 「5 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「5 主な事業に関する調べ」に記載
底魚資源 変動調査	20年度 ～ 年度 円 (14,888,000) 13,977,080	海洋資源室	(補助、委、単) ・底魚(ハタハタ、カレイ類、ズワイガニ、ベニズワイ)の資源状況を把握し、資源管理を推進するための管理方策検討の資料とする。 ・ズワイガニの資源管理のために投棄ガニ(小型、漁期外)を把握する。	(成果) 「5 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「5 主な事業に関する調べ」に記載
中海・美保湾資源 生産力調査	3年度 ～ 5年度 円 (852,000) 773,137	漁場開発室	(単) ・国交省の中海の造成浅場水域(大崎地先)において、生物調査(マハゼ等の水産資源の育成場としての機能を評価)を実施する。 ・造成浅場を活用し、水産資源の育成場として機能する方策を検討 ・造成浅場を水産資源の生産の場として活用する方策を調査、検討する。 ・美保湾の重要魚種であるカタクチイワシの持続的で効率的な利用を考えるため、資源動態や漁場形成要因を検討する。 ・美保湾に生息するアオナマコ(標準和名:マナマコ)資源の適	(成果) ・9月上旬から12月上旬にかけて、総測定時間の21.6%が、生物生息に悪影響を及ぼす貧酸素(3mg/L)の状況であることが判明した。 ・マハゼの育成場として、ブロック礁改良型が有効であり、瓦でも同様の効果があった。 ・マハゼの天然種苗を用いた陸上養殖試験を地元の企業と行い、1,804尾試験生産した(生残率約8割)。 ・漁獲統計情報や標本船調査により、漁獲実態が把握できるようになった。また、5月～11月頃にかけて美保湾内に連続的にシラスが加入していることがわかった。

			切な管理方法を確立するため、資源量の推定や産卵特性を把握するための調査を行う。	・資源量の推定方法を作成し、令和3年度漁期は試算した資源量を考慮した漁獲規制（1日の漁獲上限）を行った。 (課題) マハゼ養殖は、コストに見合った価格での出荷先が見通せないため、採集尾数を増やし、1尾あたりの生産コストを削減する必要がある。
スマート 漁業推進 事業	2年度 ～ 5年度 円 (4,906,000) 4,415,179	海洋資源室	(委、単) 県沿岸域における海況データを漁業者参加のもと高頻度、広範囲に収集し、解析することで高精度な海況予測システムを導入する。	(成果) 「5 主な事業に関する調べ」に記載 (課題) 「5 主な事業に関する調べ」に記載
計	円 (30,205,000) 27,982,046			

1.7 船舶運航調べ

(令和4年5月31日現在)

事業名	出航先	期 間		乗 船 者			備 考
		月日～月日	日数	調査員	乗務員	その他	
海洋環境変動調査	第1区	R3.4.6～R3.4.8	3	延人 1	延人 10	延人 0	
		R3.4.20～R3.4.22	3	1	11	0	
		R3.5.31～R3.6.2	3	1	11	0	
		R3.6.21～R3.6.25	5	1	11	0	
		R3.7.26～R3.7.27	2	2	11	0	
		R3.8.31～R3.9.2	3	1	10	0	
		R3.9.27～R3.9.28	2	1	11	0	
		R3.11.4～R3.11.5	2	1	10	0	
		R3.11.28～R3.11.29	2	1	11	3	
		R4.2.7～R4.2.9	3	1	11	0	
R4.2.28～R4.3.2	3	1	10	0			
浮魚資源変動調査	第1区	R3.4.14～R3.4.15	2	1	11	0	
		R3.4.26～R3.4.26	1	1	11	0	
		R3.4.27～R3.4.28	2	1	11	0	
		R3.5.18～R3.5.20	3	2	11	0	
		R3.5.24～R3.5.25	2	2	11	0	
		R3.5.26～R3.5.27	2	2	11	0	
		R3.6.4～R3.6.4	1	0	11	5	
		R3.6.7～R3.6.9	3	2	11	0	
		R3.6.15～R3.6.17	3	1	10	0	
		R3.7.19～R3.7.21	3	1	11	0	
		R3.11.1～R3.11.2	2	2	11	0	
		R4.3.8～R4.3.10	3	1	11	0	
底魚資源変動調査	第1区	R3.5.10～R3.5.13	4	1	11	0	
		R3.6.28～R3.7.1	4	1	11	0	
		R3.7.5～R3.7.6	2	1	11	0	

		R3. 7. 8~R3. 7. 9	2	1	11	0
		R3. 7. 13~R3. 7. 14	2	1	11	0
		R3. 8. 2~R3. 8. 3	2	1	11	0
		R3. 8. 16~R3. 8. 17	2	2	10	3
		R3. 8. 18~R3. 8. 20	3	2	10	0
		R3. 8. 23~R3. 8. 23	1	1	10	0
		R3. 9. 6~R3. 9. 7	2	1	10	0
		R3. 9. 9~R3. 9. 10	2	1	10	0
		R3. 9. 13~R3. 9. 14	2	2	11	0
		R3. 10. 4~R3. 10. 6	3	1	11	0
		R3. 10. 13~R3. 10. 15	3	1	11	0
		R3. 10. 18~R3. 10. 19	2	1	11	0
		R3. 10. 25~R3. 10. 27	3	1	11	0
通常整備工事船体 回航	第1区	R3. 12. 6~R3. 12. 7	2	0	11	0
		R4. 1. 27~R4. 1. 28	2	0	11	0
合 計			101	47	441	11

#### 18 用船の状況調べ

(令和4年5月31日現在)

事業名	調査内容	隻数	出航先	借上げ 延日数	金額 (円)		備考
					計	使用料内訳	
中海・美保湾資 源生産力調査	ブロック礁のマハゼ漁 場としての利用を検討 するための刺網調査	1	中海鳥取 県側沿岸	日 2	110,000	55,000円/日×2日	3t未満 1隻
合 計		1		2	110,000		

#### ○ 意見、要望等

- (1) 業務に関する意見・要望等  
特になし
- (2) 監査委員事務局に対する要望等  
特になし